

草創期の敲石類集成

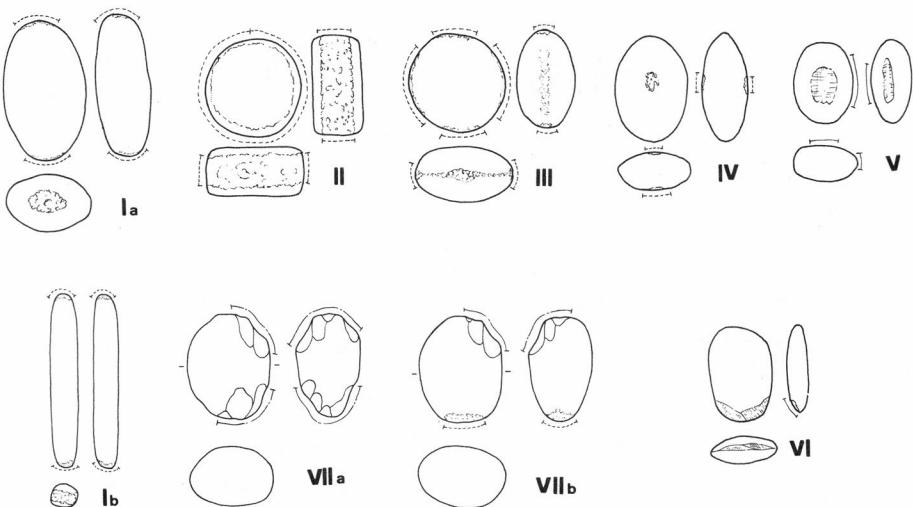
黒 坪 一 樹

ここに縄文時代草創期の敲石類出土遺跡を表示して、その資料形態を明らかにし、あわせて実測図を掲載する。敲石類は、最も縄文時代的な遺物でありながら、草創期においては十分研究されているとは言えない。神子柴系石器群の尖頭器・局部磨製石斧や有舌尖頭器の研究の旺盛さに比べ、敲石類についてはその資料的現実が感覚的に述べられているにすぎない。このような状況を少しでも打開していく意味で、今回の集成を行った訳であるが、実見するのに限度があったこと、報告書の記述に曖昧な点が多いことなどによって、使用部位の記入がかなわなかったものもある。実見した資料、正確な実測図のある資料については、敲打痕を破線、磨痕を実線、ヒンジ・クラクチャー等の剝離面を一点破線で使用部位を示した。個々の図には番号とともに形態区分を記した。なお、凹石に類似するⅣ類のうち、磨かれた面もあわせてとどめているものについては、○印を付けてある。

実測図の呈示は、使用痕がアバタ状の敲打痕のみで形成されるⅠa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類と磨面を有するⅤ類の敲石、強い打撃による剝離面をもつⅦa・Ⅶb類と極端に細長い礫を使用したⅠb類の槌石、偏平な円礫の先端部のみに面的な磨面をとどめるⅥ類の局部磨製礫さらに石皿を対象とし、原則的に北から順に行う。

資料を植物質食糧の調理具と想定した敲石と石皿に限定しなかったのは、先に日本先土器時代の敲石類について詳しく論じたことがあり¹、それらとの比較を念頭においたためである。第1表の敲石類合計から諒解されるように、草創期になってⅣ類とⅤ類のいわゆる凹石と磨石の占める割合が50%以上になる。先土器時代ではおよそ1割程度の占有率であったことからすると、かなり増加している。ただ、草創期でも後半とされる多縄文系土器群の時期に、この傾向はより顕著になるようである。石皿とみなせるような資料が漸次増加してくるのもやはり後半期である。さらに、Ⅱ類とⅥ類の資料が、現状では1点もみられない。両者の用途について、なお慎重に考えなければならないことを示唆する事例として捉えたい。

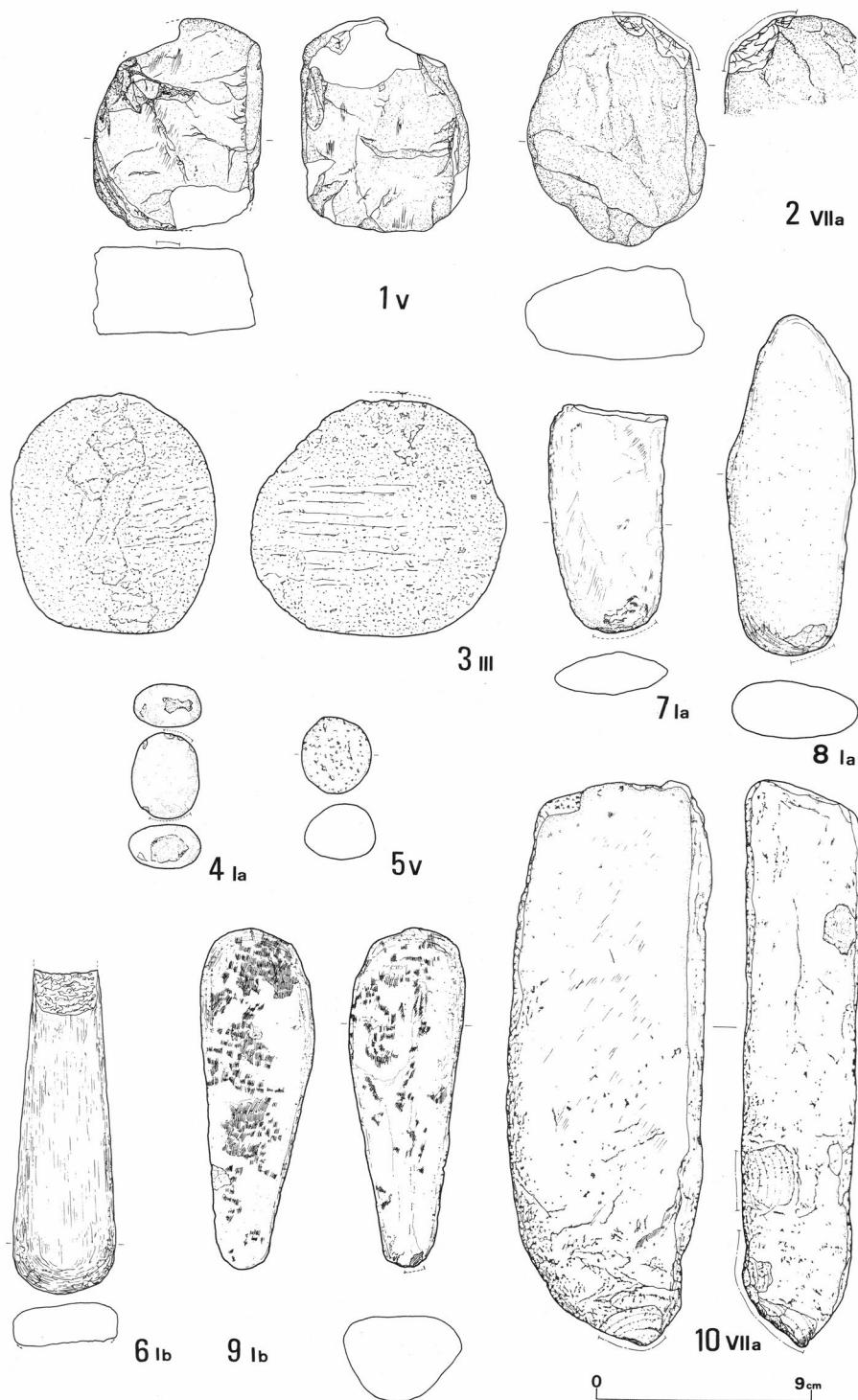
次の縄文時代早期以降の敲石・石皿の増加と、草創期の資料的現実をどのようにみるかという点も草創期の植物質食糧利用の実態を考える上に重要である。今回は、資料の集成に重点を置いたが³、敲石類の研究は今後意欲的に取り組まなければならないと考える。



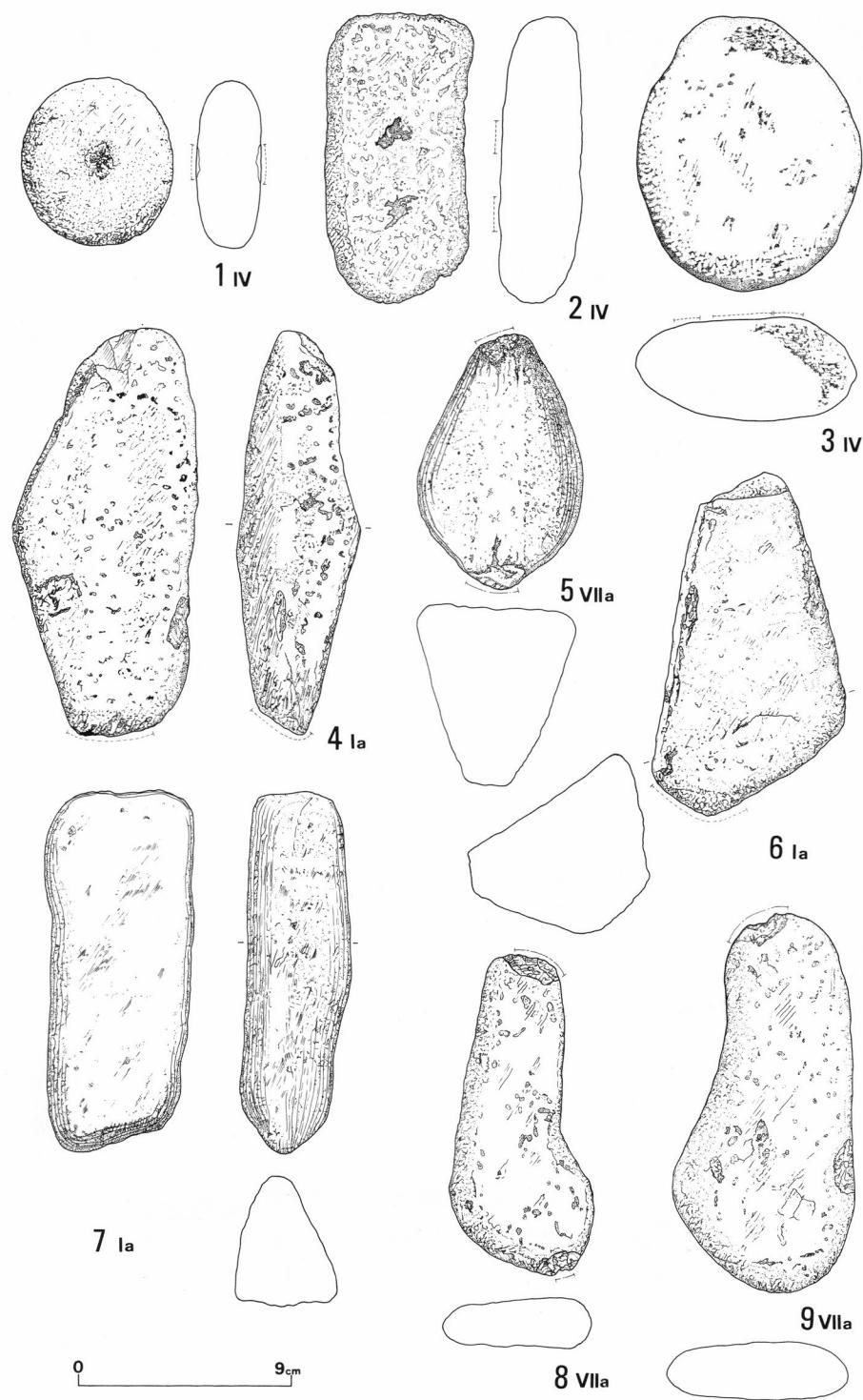
第1図 敲石類形態区分概念図

第1表 敲石類出土遺跡一覧表

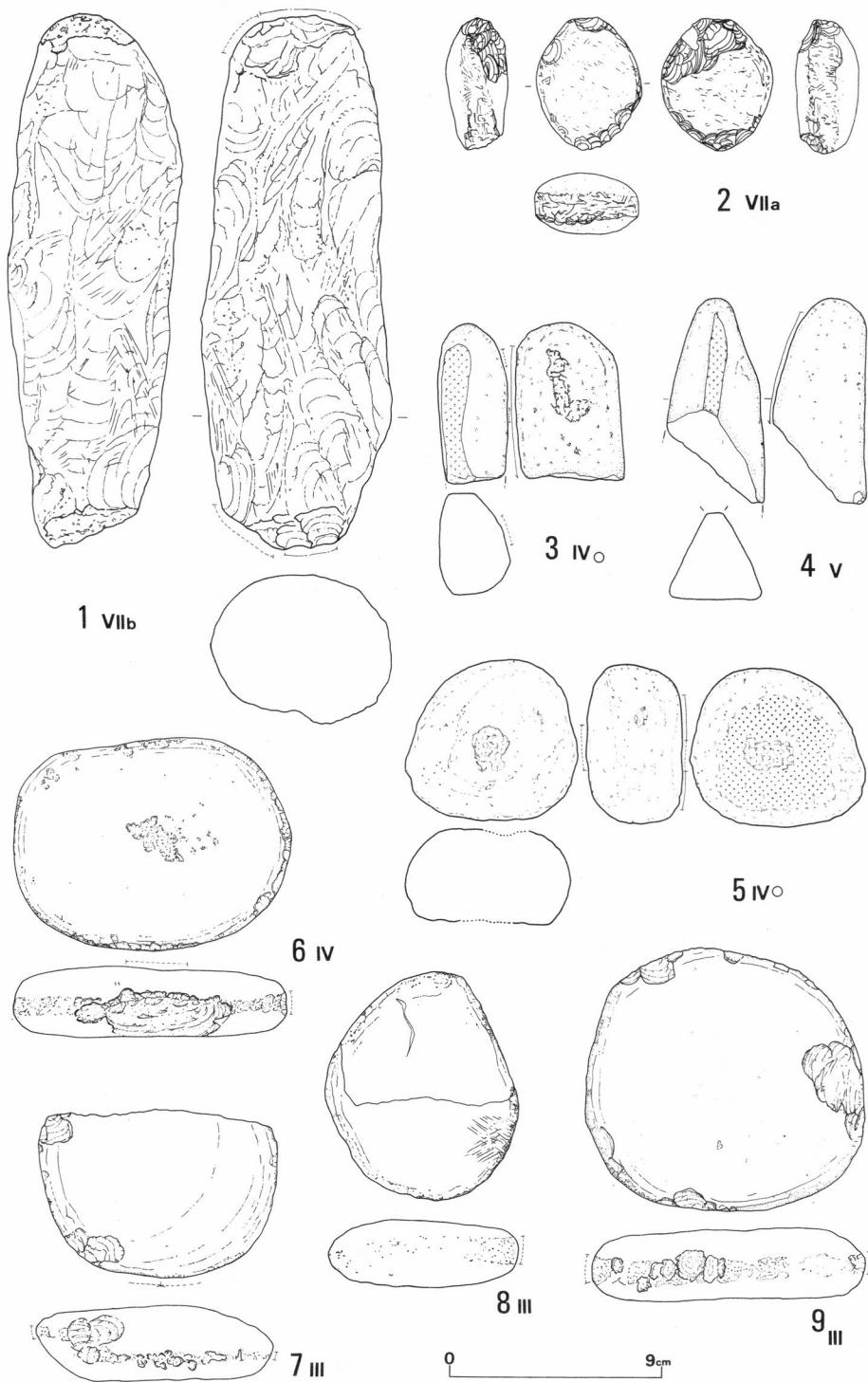
遺 跡 名	層位地区他	伴 出 土 器				敲 石						局部磨 製鑽	槌 石	總 石 皿	台 石	插 図 番 号	文 献・備 考
		陸起線	爪形	押圧	回転	その他	Ia	II	III	IV	V						
(北海道)																	
1 モサンル	Ⅲa~c・N										1		1	2		2-1・2	上野他1981
(青森)																	
2 大平山元I	4・II下					無文		1						1		2-3	三宅他1979
(宮城)																	
3 座敷乱木	D・4区						1							1		2-4	石器文化談話会編1978
4 志引	Ⅲ層		○								1			1		2-5	鍊田1984
5 鹿原D	Va層上										1			1			岡村他1980
(山形)																	
6 火箱岩洞窟	下洞第3層	○		○							1		1	1		2-6	加藤他1962
7 日向洞窟西	VI~Vc層	○							○					?			高島町教育委員会1988
8 弓張平	II層									2				2	1		加藤他1979
(新潟)																	
9 室谷洞窟	第10層		○	○		1					1		2		2-7・10	中村1964	
10 "	第12層		○	○		1							1		2-9	"	
11 "	第13層		○	○		1							1		2-8	"	
12 小瀬が沢洞窟	洞内3層	○	○	○	○	無文・刺	2	3		2			7		3-1・2・4・6・8・9	中村1960	
13 "	洞口3層	○	○	○	○	無文・刺	1	1		1			3		1・3-3・5・7、13-1	"	
14 壬	II・IIa~N	○	○	○	○	円孔	○	○	○				?	○			小林編1980・1981・1982・1983
(長野)																	
15 薩沢B	?								1?				1	2	4-1		森嶋1982
16 男女倉	C2地点												1	1	4-2		森山他1975
17 小佐原	?			○			5	1					10		4-3・4・5	広瀬1982	
18 増野川子石	A地点			○		4	1						5	1	4-6~9、5-1		酒井1983
(群馬)																	
19 石畳岩陰	13層			○		1	1	5					7	3	5-2~8、13-2~4	巾1988	
(栃木)																	
20 大谷寺洞窟	第3~4層	○	○	○			1	1					2				塙1976



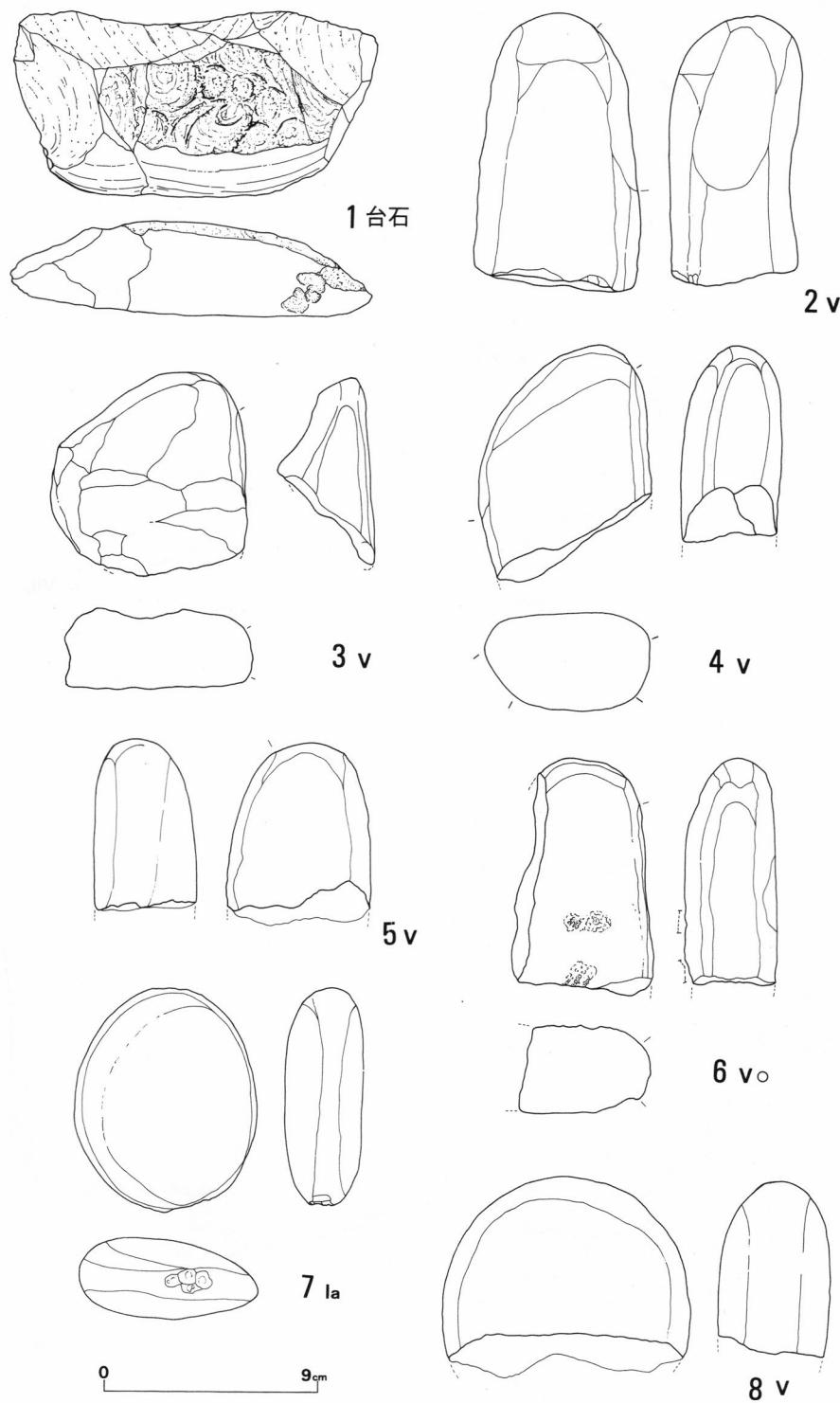
第2図 敲石類実測図(1)



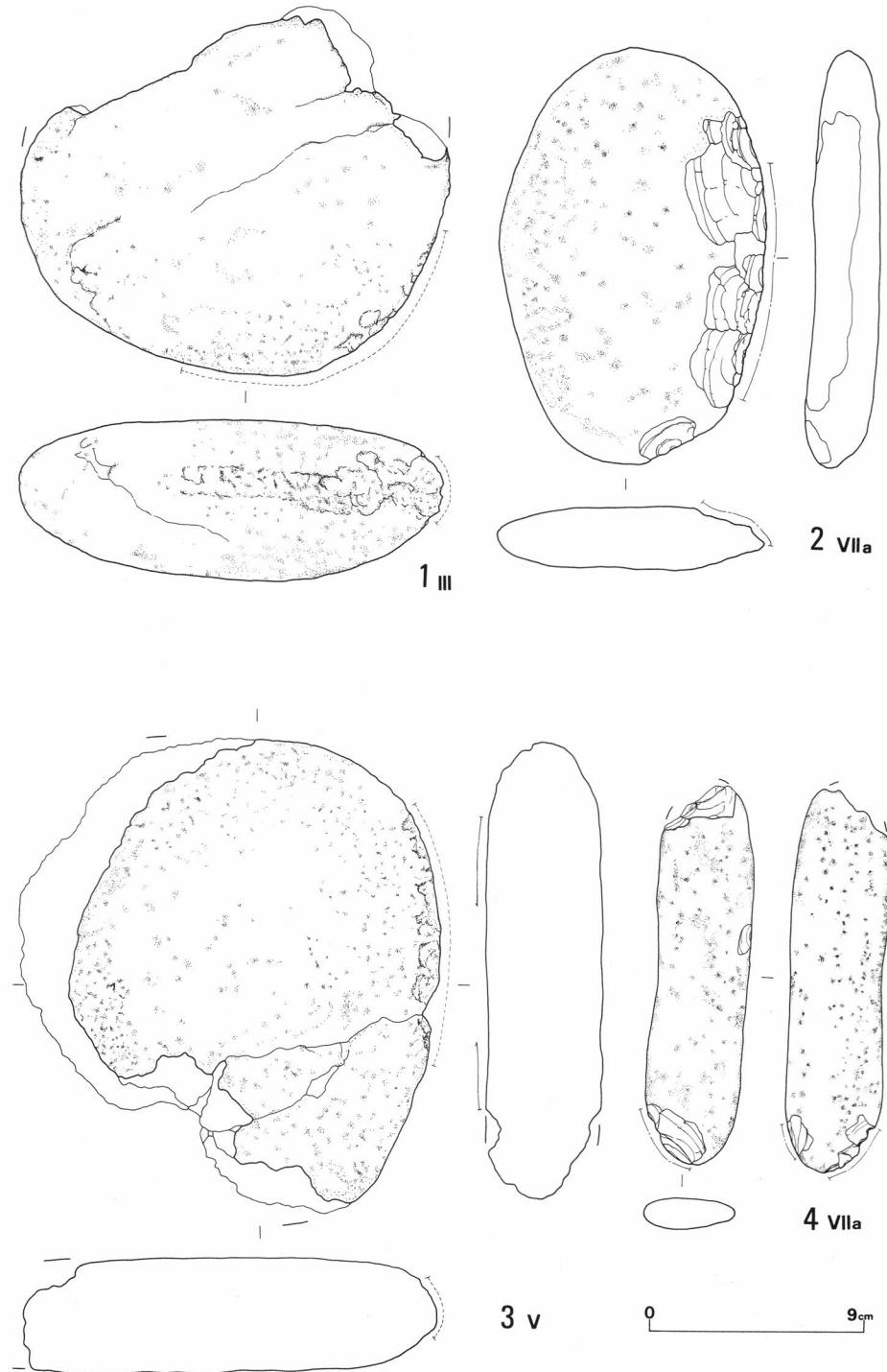
第3図 敲石類実測図(2)



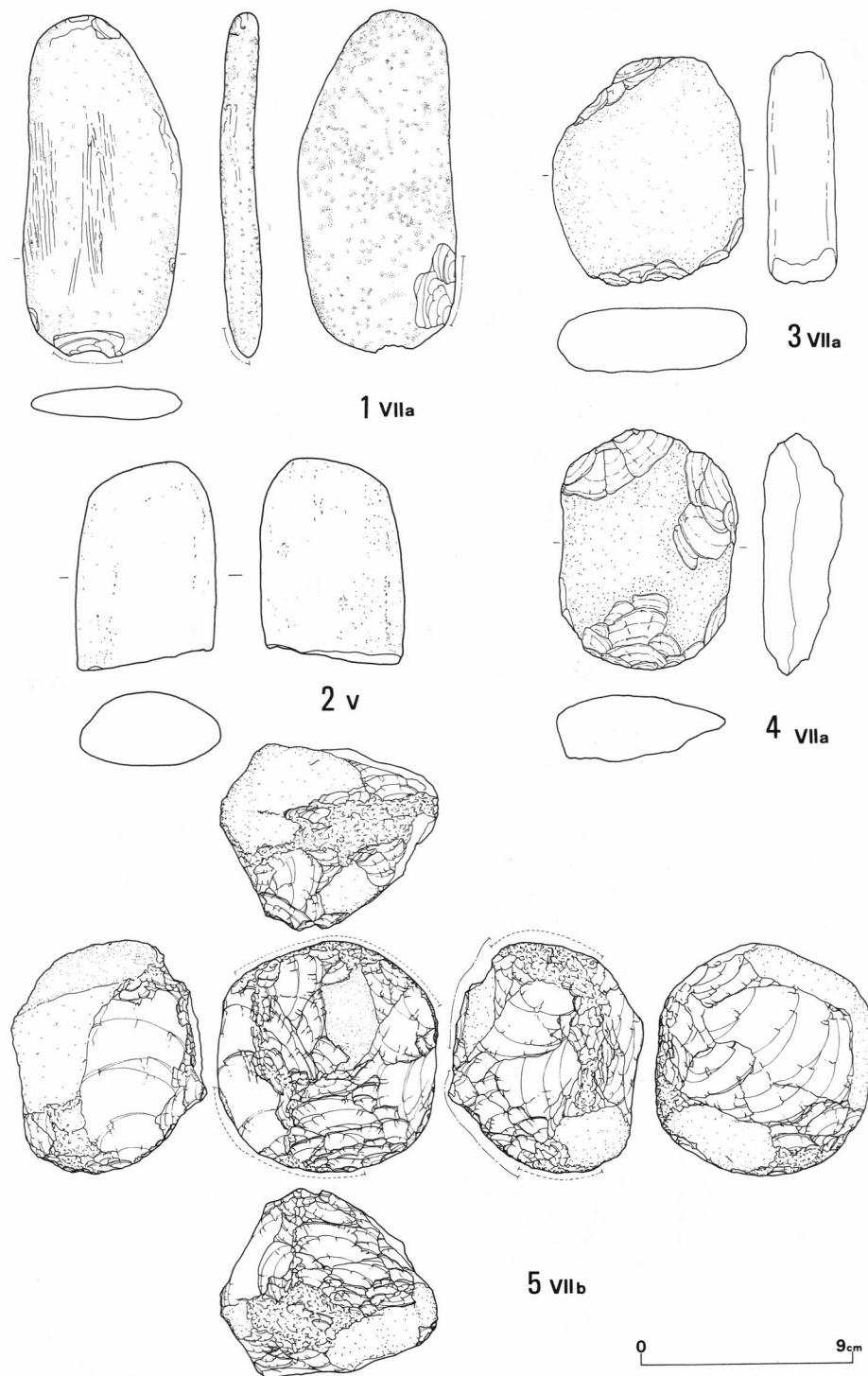
第4図 敲石類実測図(3)



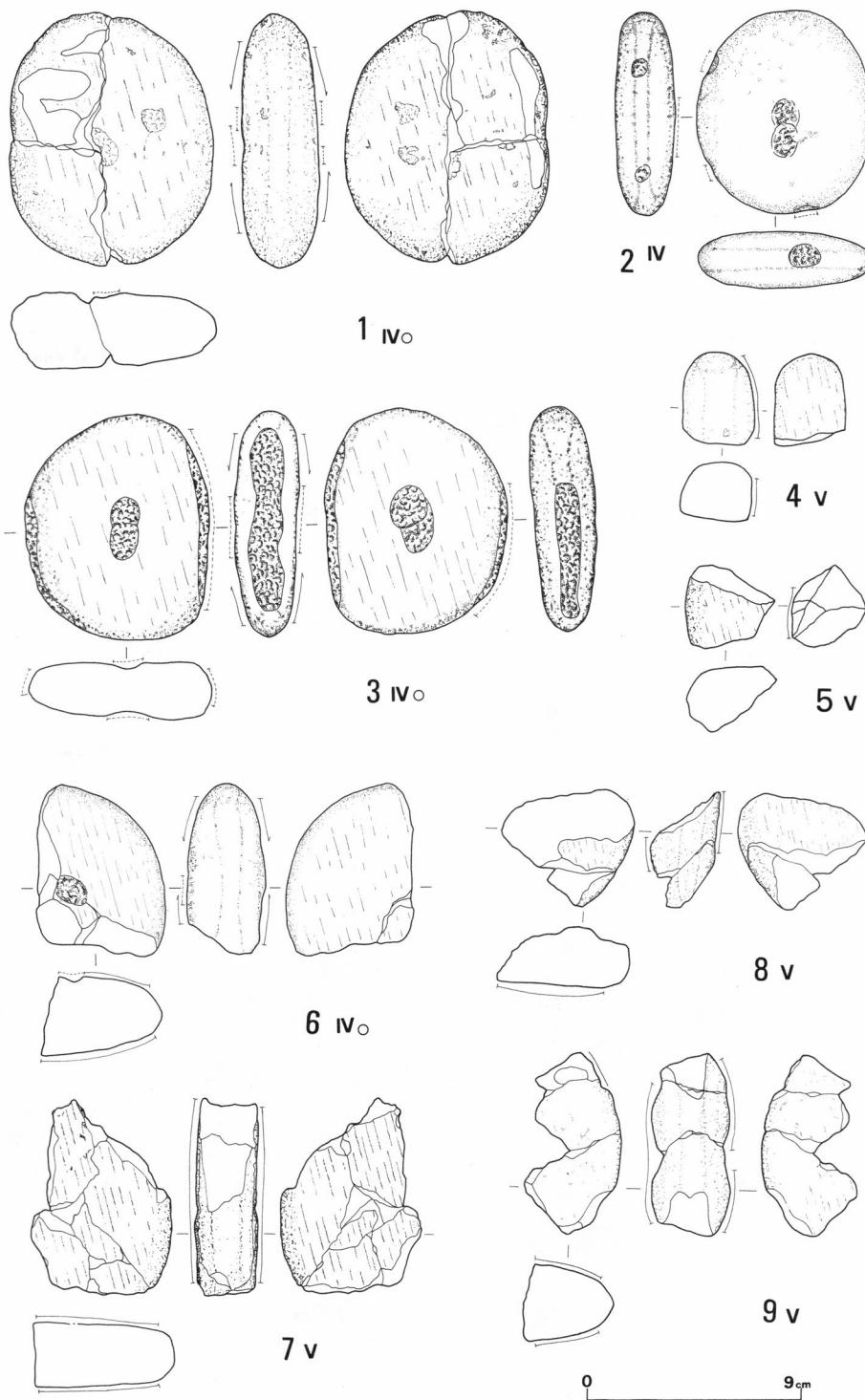
第5図 敲石類実測図(4)



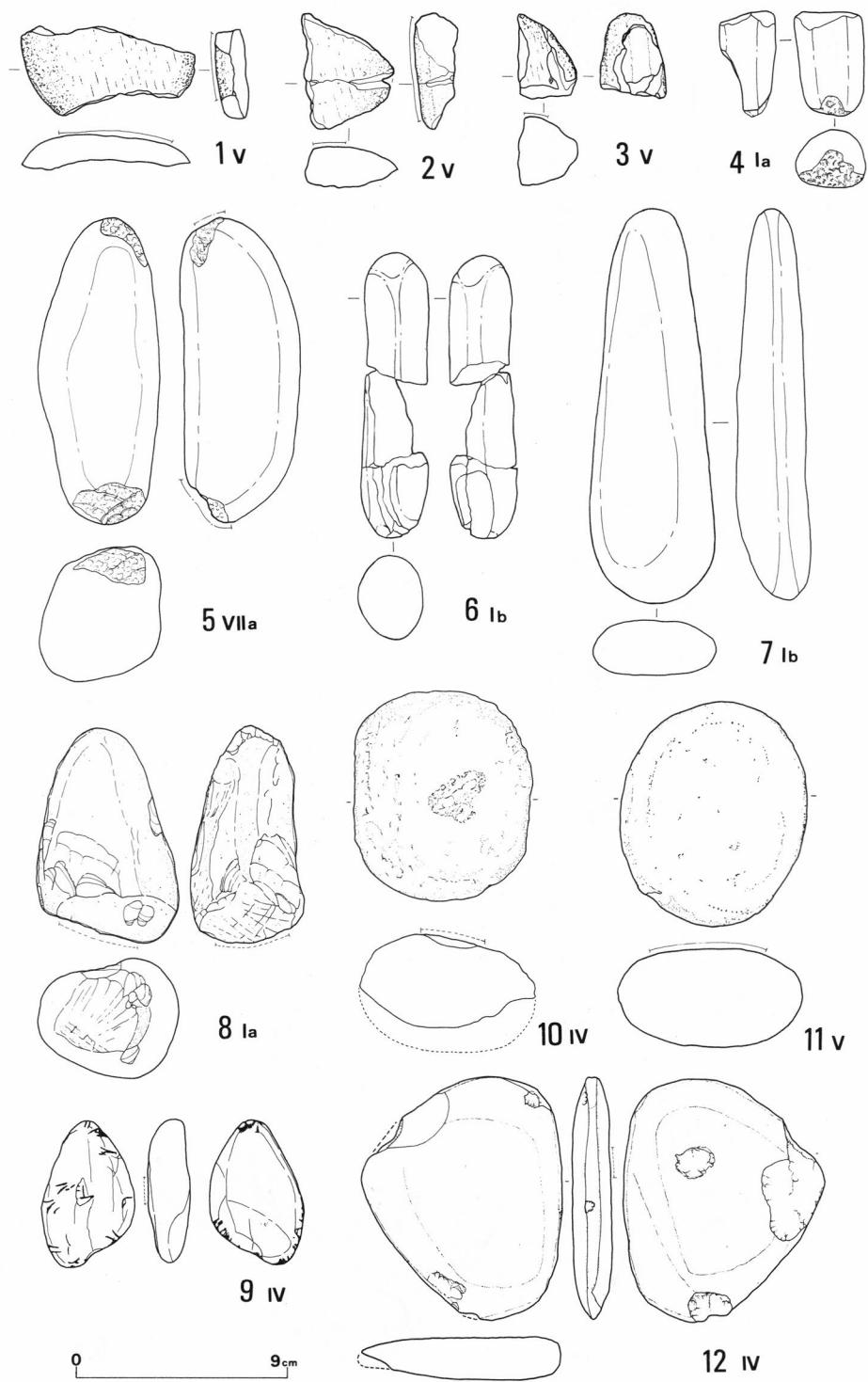
第6図 敲石類実測図(5)



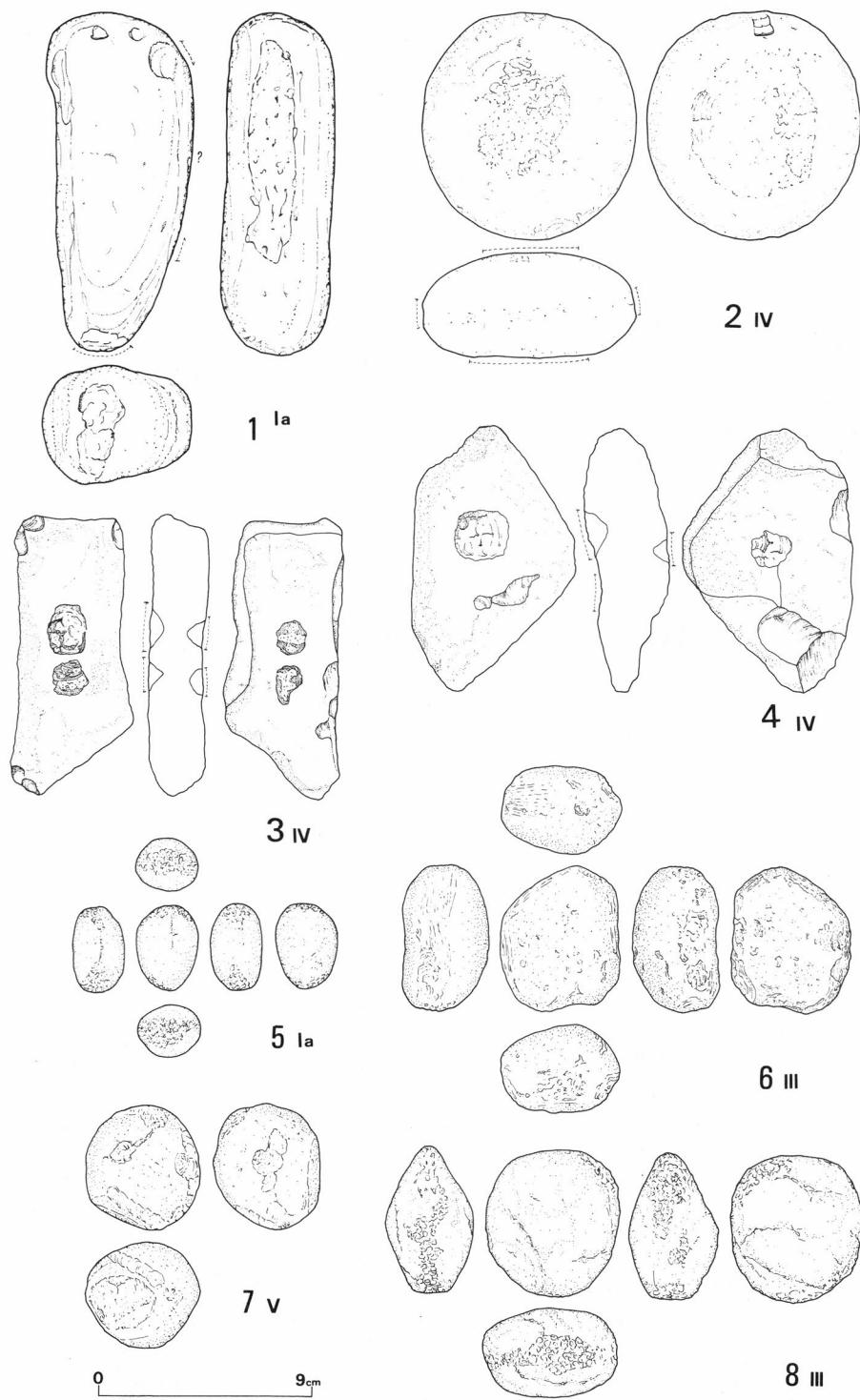
第7図 敲石類実測図(6)



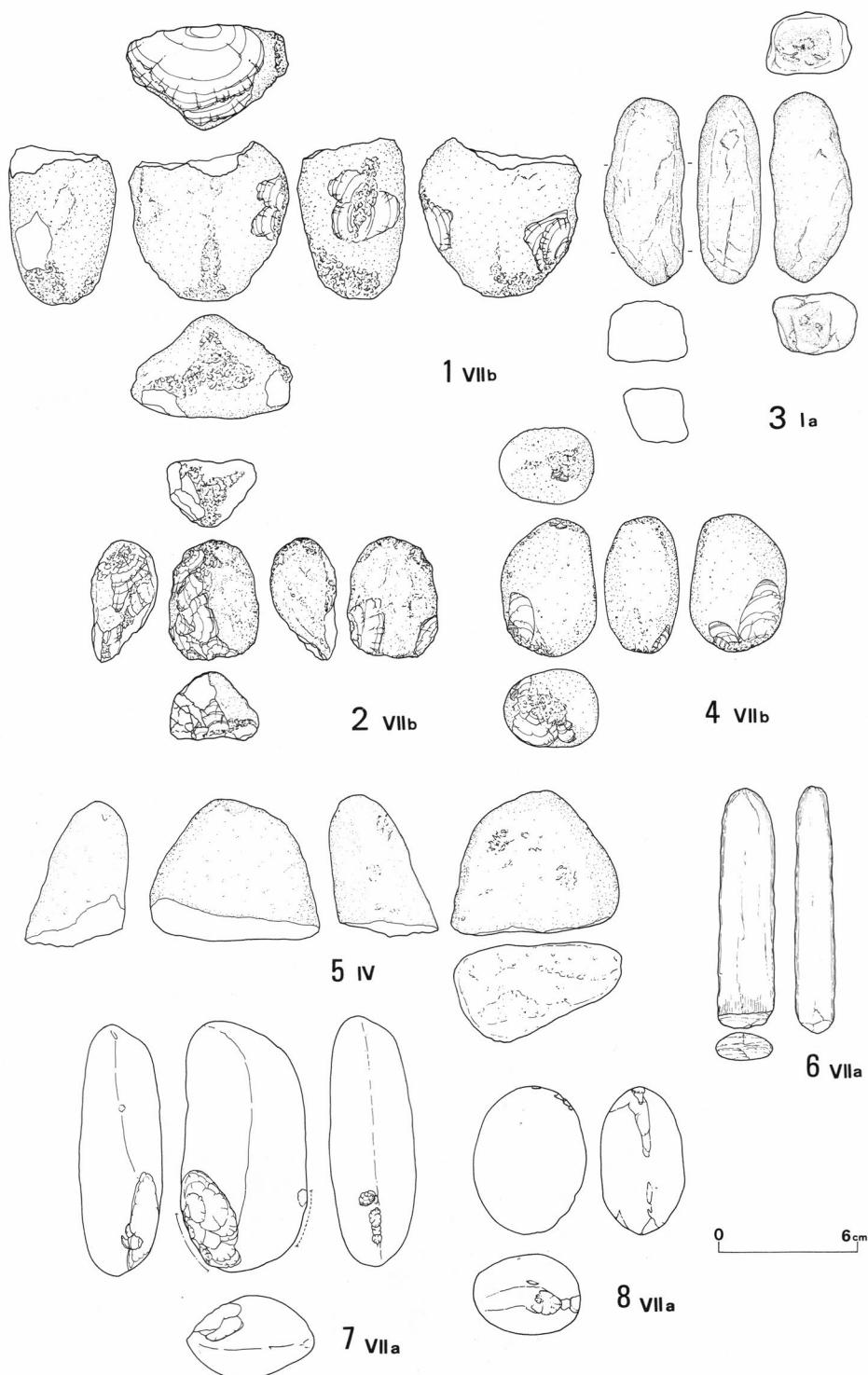
第8図 敲石類実測図(7)



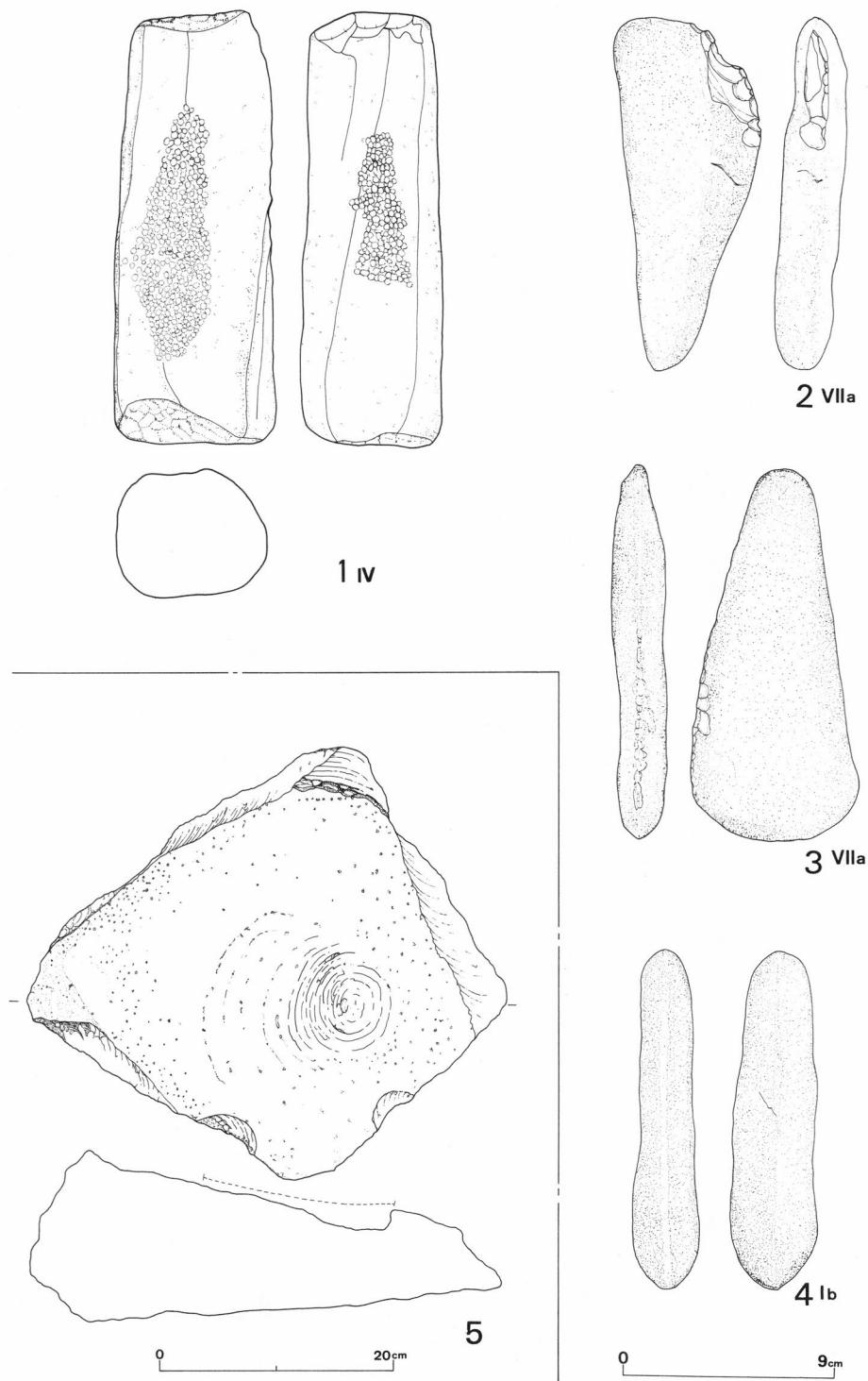
第9図 敲石類実測図(8)



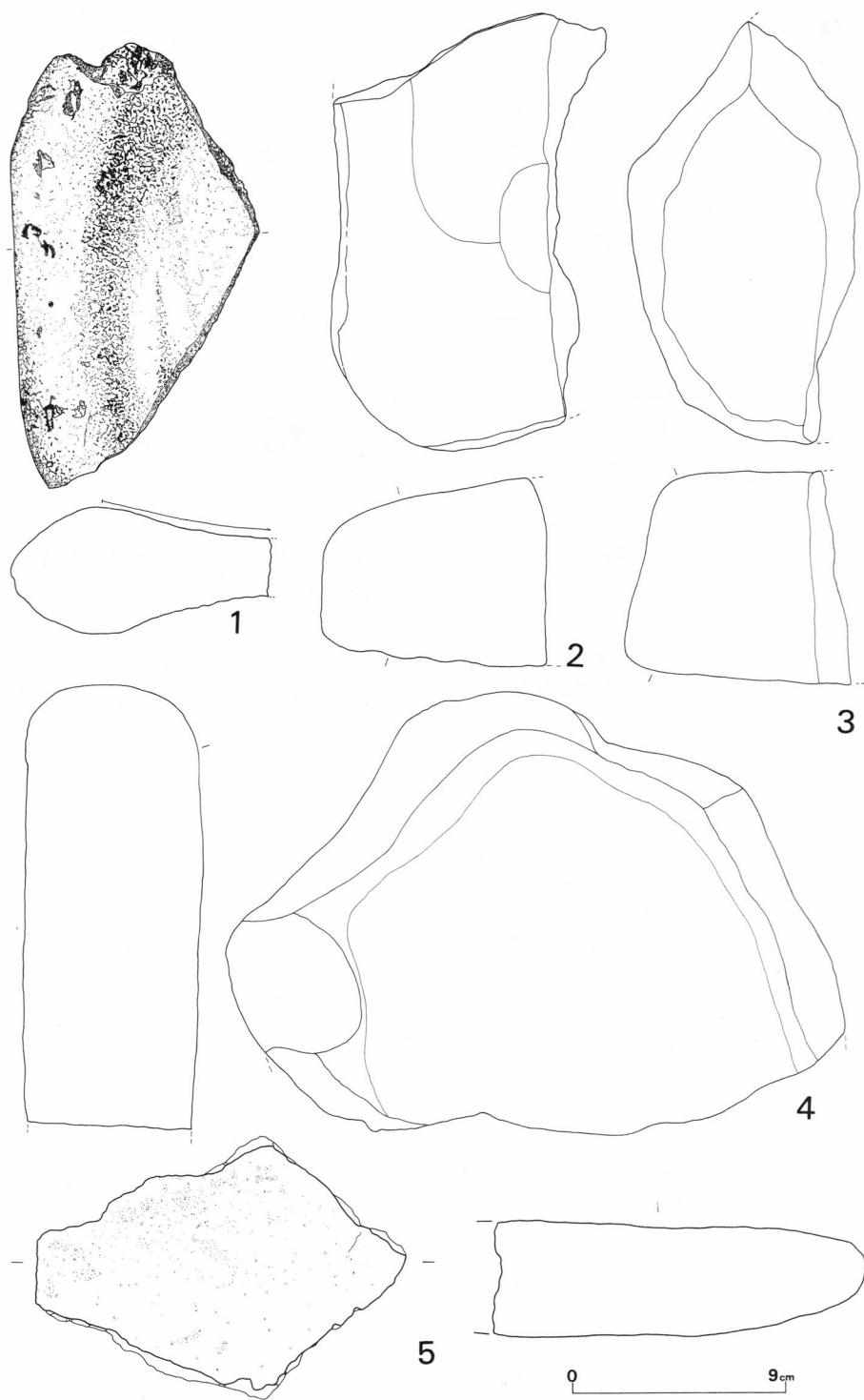
第10図 敲石類実測図(9)



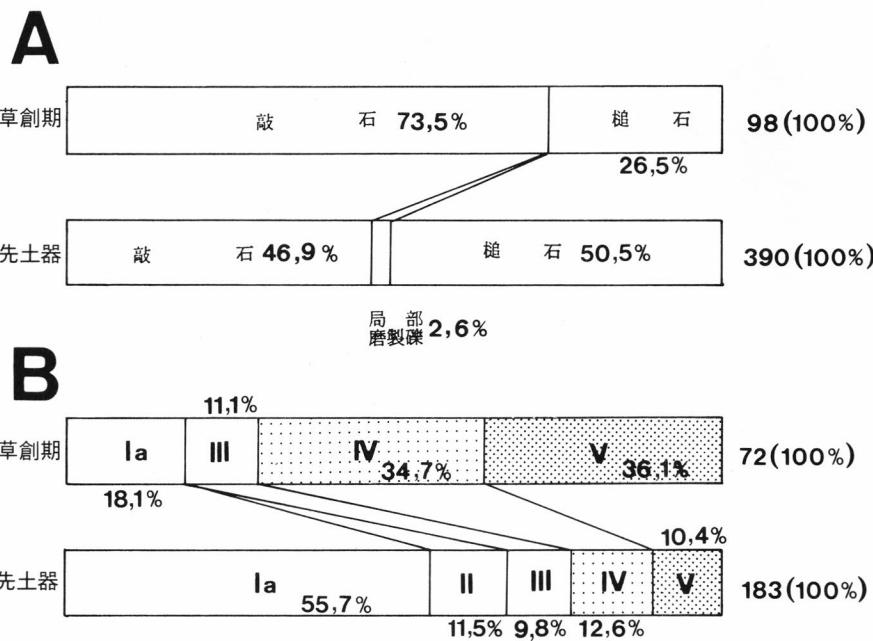
第11図 敲石類実測図(10)



第12図 敲石類・石皿実測図(11)



第13図 石皿実測図



第14図 草創期・先土器時代の敲石類占有率対比グラフ
(A:敲石類全体、B:敲石(Ia~V類))